



かみやま

学校教育目標

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>



いのち輝く未来社会のデザイン

校長 窪田 剛久

新年、明けましておめでとうございます。日本で 20 年ぶりに開催された日本国際博覧会、いわゆる「2025Expo 大阪・関西万博」で沸いた 2025 年、「今年の漢字」が「熊」に決まりました。かつて、熊による人身被害といえば、キノコ採りや山菜採りで山に入った人がばったり遭遇するケースがほとんどでしたが、近年、人間の生活圏に近接して暮らすアーバンベアの存在に注目が集まっていました。昨年は、銀行の駐車場、大学のキャンパス、スーパーマーケットなどごくごく普通の生活圏で熊の出没が相次ぎ、市町村長の判断で市街地での銃猟を可能とする「緊急銃猟」制度が導入されました。秋田県にはクマ被害対策支援のため自衛隊が派遣されました。2位は「米」でした。昨年から「米」価格の高騰が続き、政府は古米、古古米、古古古米に至るまでの備蓄米の放出に踏み切りました。改めて日本が米食文化の国であることを考えさせられた1年でした。3位「高」は、物価「高」、株「高」、夏の「高」温といろいろありましたが、初の女性首相となった「高」市早苗氏の動向に国内外から大きな注目が集まったことも要因となっているようです。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」でした。また万博がめざすものとして「持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献」も挙げられていました。熊被害、物価高など命や生活が脅かされる中、どのようにしたら持続可能な社会を築いていけるのか、真剣に未来社会のデザインを考えていく必要に迫られた2025年でした。さて、今年はどういう年になるのでしょうか。



2026 年は午年ですが、本来の干支でいうと丙午（ひのえ・うま）。

午年であること以外にも込められた意味があります。「丙」は、陽の火をつかさどる文字です。太陽のような明るさ、情熱、決断力を象徴し、生命の力強い成長段階を表すそうです。また、物事を外に大きく広げていく性質があり、リーダーシップやエネルギーを意味します。その影響力は、非常に強いとされています。「午」は十二支の7番目で、動物の馬に当てはめられています。古代では「馬」が生活の要であり、健康や豊作、発展の象徴でもありました。また「午」の字は、餅をつく道具の動きに由来し、交差や転換を意味します。このことから「午前」「午後」のように、時間の区切りにも使われているそうです。

2026年の丙午（ひのえ・うま）の年は、太陽のような強いエネルギーと情熱、前進する力が象徴される年で、行動力や実行が運を呼び込む年とされています。60年に一度巡る「火の馬」の年で、新しい挑戦や飛躍のチャンスが多く、社会や働き方にも大きな変化が期待され、物事が一気に動き出す転換点になると言われているとのことでした。

上山小学校では昨年中、様々な学習活動や行事に取り組みました。対外的なものも多く、12月だけでも1年生幼保小交流会、2年生盲導犬体験、3年生防災教室、4年生ポッチャ体験・減災マップ教室、5年生球技交流会・稲わらリース作り体験・保険会社出前授業、6年生高齢者体験・マヨネーズ教室、個別級遠足、高学年ボランティア清掃と実に多岐にわたる学習行事を行うことができました。上山小学校は「人」との関わりを重視し、たくさんの講師の方々、地域の方々にお世話になっています。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。

体験的な活動が充実した昨年に引き続き、今年も外に目を向け、たくさんの「人」と出会い、新しい挑戦を積み重ねることで「上山っ子」が大きな飛躍を遂げられるように環境を整えていこうと思っています。熊被害や物価高騰などネガティブな出来事もありますが、子どもたちがいのち輝く未来社会を思い描けるように、職員一同精一杯子どもたちの背中を押し続けていきます。上山小学校のチャレンジをこれからも見守っていただけるとありがたいです。今年もよろしくお願いたします。